令和５年度「中城御殿跡」現地説明会資料

令和５年 10 月 22 日（日）
沖縄県立埋蔵文化財センター

１．はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、平成 19（2007）年度から「中城御殿跡」の発掘調査を実施しています。今回の調査は、石積みなどの遺構が、どの範囲・状態で残されているかを確認することが目的です。調査期間は、令和５年７月から 11 月までの５か月間です。調査面積は、トレンチ１とトレンチ２を合わせて 200 ㎡です。今回の調査成果は、中城御殿跡を公園として整備・活用していくための基礎資料となります。

２．中城御殿とは

中城御殿は、次の琉球国王となる王子が暮らした邸宅を指します。名称の由来は、王子が領地として中城間切を与えられ、中城王子あるいは中城御殿と称されたことによります。当初その建物は、17 世紀前半に現在の首里高等学校の敷地内（首里真和志町）に創建され、その後 1875（明治８）年に現在の首里大中町に移転します。

３．調査の成果

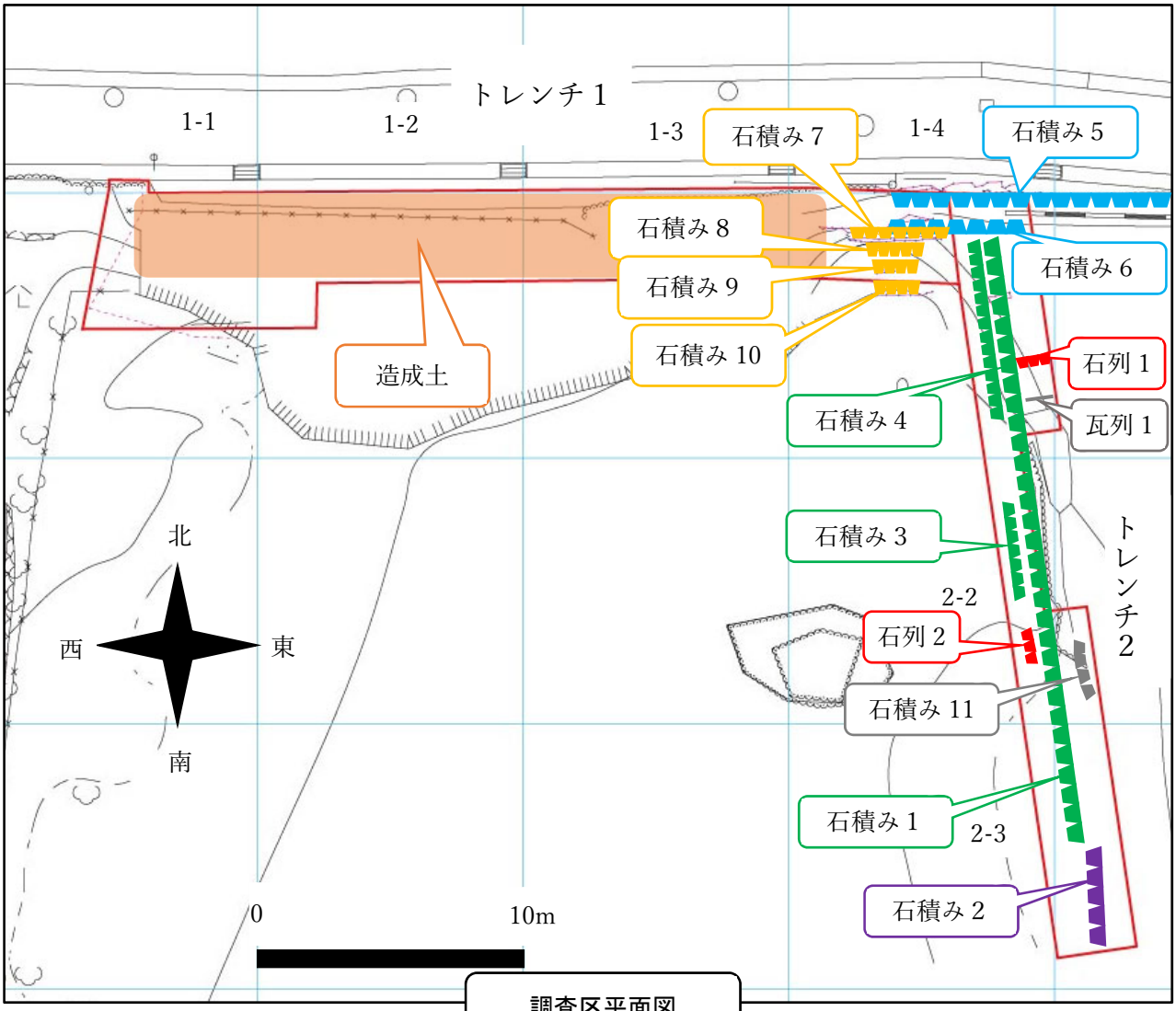
トレンチ１では、土地をかさ上げするための造成土が広範囲で見つかりました。この造成土は、地山のマージ（赤土）を利用しているため、赤褐色をしており、石灰岩礫や暗褐色土などが混入しています。さらに、グスク土器や中国産染付などの遺物も混入しています。

また、中城御殿の北辺を区画する石積み（石積み５・６）が一部で見つかりましたが、大部分は戦争や戦後の開発などの影響で残っていませんでした。

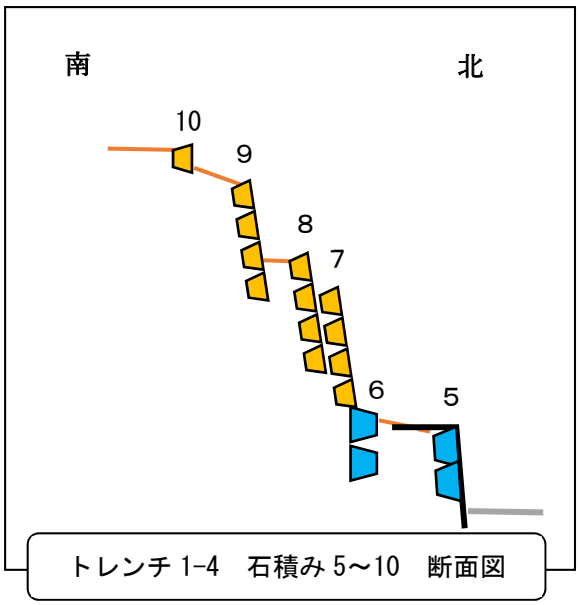
トレンチ２では、上之御殿地区を区画する土留めの石積み（石積み１・３・４）が見つかりました。この石積みは、主体となる石積み１の裏側に、補強のために石積み３・４を積むことによって、土圧に耐えていると考えられます。

また、中城御殿の北辺を区画する石積み（石積み５・６）が見つかりました。石積み５は、岩盤を利用して石を積んでいますが、上部は残っていないため、正確な高さはわかりません。

中城御殿跡の位置（Google マップ）



調査区平面図



トレンチ 1-4　石積み 5～10　断面図

遺構一覧表

	名称	時代	内容
1	石積み 1	戦前	上之御殿の東辺。
2	石積み 2	戦前	
3	石積み 3	戦前	石積み 1 の内部構造。
4	石積み 4	戦前	石積み 1 の内部構造。
5	石積み 5	戦前	中城御殿の北辺。
6	石積み 6	戦前	石積み 5 と対。
7	石積み 7	戦後か	石積み 6 の上に積まれる。
8	石積み 8	不明	
9	石積み 9	不明	
10	石積み10	不明	
11	石積み11	戦前	
12	瓦列 1	戦後か	畑の跡か。
13	石列 1	戦前か	
14	石列 2	戦前	
15	造成土	戦前	赤土を利用。

写真 1　トレンチ 2-3　石積み 1･2

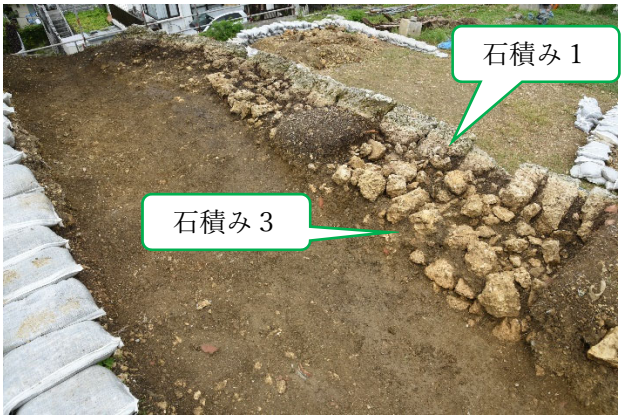


写真 2　トレンチ 2-2　石積み 1・3

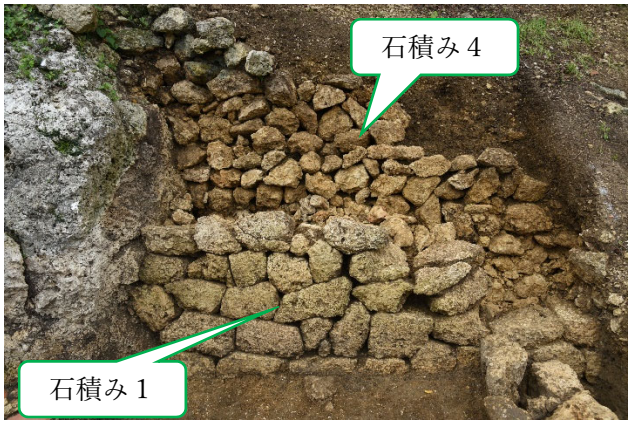


写真 3　トレンチ 2-1　石積み 1･4

写真 4　トレンチ 2-1　石積み 1･4

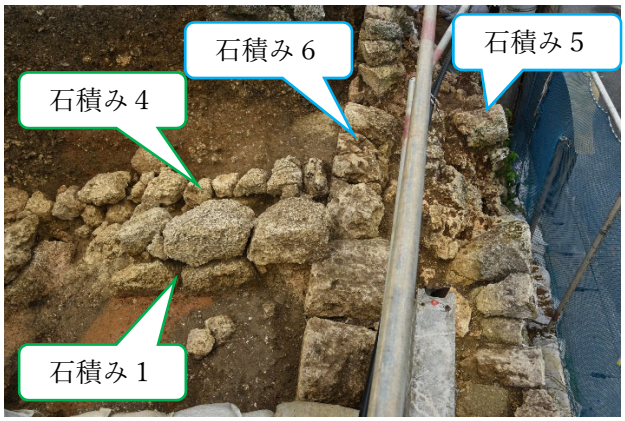


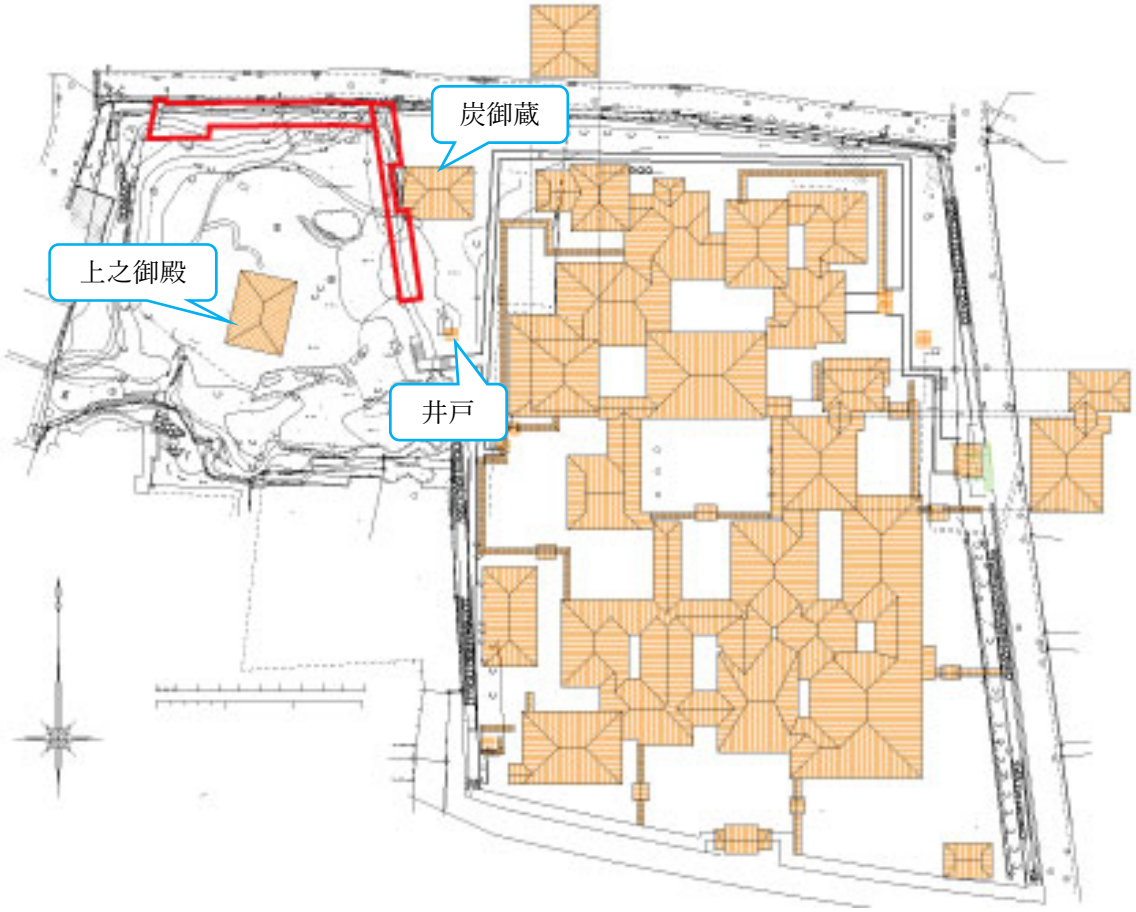
写真 5　トレンチ 2-1　石積み 1･5･6

写真 6　トレンチ 1-4　石積み 5～9

写真 7　トレンチ 1-1～3

写真 8　トレンチ 1-2･3

戦前の航空写真



中城御殿の屋根伏せ図